

Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法 工事仕様書

ver.24-10



岡部株式会社 営業支援部

〒131-8505 東京都墨田区押上2-8-2

TEL.03-3624-5401 <https://www.okabe.co.jp/mokuzo/tec-one-p3plus-chukyaku/>

1. 共通事項

1.1 適用範囲

本仕様書は、Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法に適用する。

1.2 準拠図書

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| a. 木質構造設計規準・同解説（2006） | 日本建築学会 |
| b. 集成材の日本農林規格（2008） | 農林水産省 |
| c. 大断面木造建築物設計施工マニュアル（1988） | 日本建築センター |
| d. 公共建築木造工事標準仕様書（令和4年版） | 国土交通省 |
| e. 建築工事標準仕様書JASS11木工事（2005） | 日本建築学会 |
| f. 建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）木工事 | 日本建築学会 |
| g. 建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）鉄筋コンクリート工事 | 日本建築学会 |
| h. 各種合成構造設計指針・同解説 | 日本建築学会 |
| i. 公共建築工事標準仕様書（建築工事編） | 公共建築協会 |
| j. Tec-One P3+ 接合システム施工要領（2014） | |
| k. Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法設計施工標準図 | |

1.3 特記事項の適用

- 特記事項等は■印に適用する。（□印は適用しない）
- 同一項目に■印が2カ所以上ある場合は、共にこの工事に適用し、その適用範囲は設計図書による。

2. 構造用木材の品質・仕様

2.1 構造用木材の品質

- 構造用集成材の品質は、平成19年農林水産省告示第1152号「構造用集成材の日本農林規格」による。
- 製材の品質は、平成19年農林水産省告示第1083号「製材の日本農林規格」による。
- 柱脚に対応可能な柱の樹種及び規格は下記による。

樹種	規格	備考
□オウシュウアカマツ	E95-F315以上	同一等級構成集成材
□オウシュウアカマツ	E105-F300以上	対象異等級構成集成材
□ベイツガ（カナダツガ）	E120-F375以上	同一等級構成集成材
□ベイツガ（カナダツガ）	E120-F330以上	対象異等級構成集成材
□スギ	E50以上	製材（JAS材）
□スギ	E65-F255以上	同一等級構成集成材
□スプルース	E95-F315以上	同一等級構成集成材
□上記以外の同等材料		
- 柱脚に対応可能な筋かいの樹種及び規格は下記による。

樹種	規格	備考
□オウシュウアカマツ	E95-F315以上	同一等級構成集成材
□オウシュウアカマツ	E105-F300以上	対象異等級構成集成材
□ベイツガ（カナダツガ）	E120-F375以上	同一等級構成集成材
□ベイツガ（カナダツガ）	E120-F330以上	対象異等級構成集成材
□上記以外の同等材料		

3. 柱脚金物、座金、ナットの品質及び仕様

・Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法に用いる柱脚金物、座金、ナットは下記による。

3.1 柱脚金物

- 柱脚金物の品質
 - 柱脚金物はBCJ評定-LW0042-04の評定書によって性能が確認されたものを用いる。
 - 柱脚金物に欠損を伴う加工を行ってはならない。
- 使用する柱脚金物
 - 柱脚は下記による。
 - BS2-S
 - BS2-L
 - BS2-W

3.2 座金

- 柱脚金物を押さえる座金には専用のWS2座金を用いる。
- 座金は柱脚金物の溶接に乗り上げないように設置する。

3.3 M20ナット

- 柱脚金物にはM20の専用ナット（3種または1種）を用いる。
- 柱脚金物を押さえるナットは標準を3種ナットのダブルナットとし、ボルトの弛みを防止する。
- 柱脚金物を押さえるナットをシングルナットとする場合は1種ナットを使用し、弛み止め施した上で監督者の承認を受ける。

4. アンカーボルトの品質及び仕様

- Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法に用いるアンカーボルトは下記による。
 - アンカーボルトはBCJ評定-LW0042-04の評定書によって性能が確認されたものを用いる。
 - アンカーボルトの有効長さLdは280mm以上とする。
 - アンカーボルトの下端部には専用の定着板を取り付ける。

5. 基礎梁

- Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法のアンカーボルトが設置される基礎梁は、下記の基準を満たさなければならない。
 - 基礎梁は存在応力以上の性能を有するものとし、その仕様は構造計算により求める。
 - 基礎梁のコンクリート設計強度はFc21~36N/mm²とする。
 - 基礎梁のコンクリートは幅200mm以上、高さ600mm以上の断面とする。
 - 基礎梁の底面は上部構造の引張で浮き上がりを生じてはならない。
 - 基礎梁の配筋は閉鎖型配筋、若しくはシングル2列配筋とする。
 - シングル2列配筋の場合、基礎梁の構造計算に片側の配筋を含めてはならない。（シングル1列分が有効な鉄筋として基礎梁の計算を行うこと。）
 - アンカーボルトは基本的に基礎幅に対して中央に設置し、基礎幅端部からアンカーボルト芯を100mm以上離すこと。
 - アンカーボルトの中央から120mm以下の範囲に立上り筋（D13 SD295以上500mm以上）を6本、あばら筋とは別に設ける。
 - シングル2列配筋の場合、アンカーボルトの中央から立上り筋の上部に定着長8DのU時鉄筋を添わせる。
 - 柱脚の中央から650mm未満の範囲で基礎断面が減少する場合は、隅柱の仕様に従う。
 - 隅柱の仕様は、Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法設計施工標準図による。
 - ※隅柱の場合は端部補強筋をコンクリート上面から80mm以内と160mm以内の2カ所に水平に設置する。

6. 無収縮グラウト

- 基礎梁と柱脚金物の間に設けるグラウトは下記による。
 - グラウトの厚さは標準寸法20mmとする。
 - 柱脚金物を設置する基礎天端はグラウトの厚み分、減じて設定する。
 - グラウトは専用のグラウト枠を用いて施工する。
 - グラウトは専用の無収縮グラウトを用いる。
 - グラウト打設後、1日以上の養生期間を設ける。

7. 木材の仕口加工

- 木材の仕口加工は工場加工を原則とする。
- 既製品金物と取り合う仕口の加工寸法及び加工精度は、接合金物製造業者が定めた仕様に従うものとする。
- 製作金物と取り合う仕口加工は下記による。
 - 穴径
 - ボルト d+1.0mm（12mm未満）
 - d+1.5mm（12mm）
 - d+2.0mm（16mm以上）
 - ドリフトピン d-0.5mm～+0.5mm
 - 精度
 - 穴あけの許容差は下記による。
 - 穴の芯ずれ -2～+2mm以内
 - 穴間隔ずれ -2～+2mm以内
- 柱脚金物に付近の土台の木口は柱脚金物から20mm以上の間隔を開ける。

8. 保管

- 製品の性能が損なわれないように、保管を行う。

9. 施工

9.1 アンカーボルト

- Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法のアンカーボルト施工および施工誤差の標準許容差は下記による。
 - 水平方向 -2≤e1≤2 [単位：mm]（e1は水平施工誤差）
 - 鉛直方向 0≤e≤5 [単位：mm]（eは鉛直施工誤差）

 - アンカーボルトの設置は、柱脚工法技術者（※1）が行う。
 - アンカーボルトを捨てコンから架台を用いて立ち上げる場合、周辺の捨コンの厚さは90mm以上とする。
 - アンカーボルトの配置及び施工は構造図に従う。

9.2 柱脚金物

- Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法の柱脚金物の施工は下記による。
 - 柱脚金物の設置は柱脚工法技術者（※1）が行う。
 - 柱脚金物設置後は、柱脚金物に衝撃を与えないこと。
 - 筋かい取付プレートにコンクリートの付着や傷がないこと。汚れが付着した場合は、清掃すること。
 - 柱脚金物のホゾパイプ（柱取付部分）を曲げてはならない。

9.3 グラウト

- Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法のグラウトの施工は下記による。
 - グラウト打設は柱脚工法技術者（※1）が行う。
 - グラウト打設後、漏れがないように養生すること。
 - グラウト打設後、1日以上養生すること。

9.4 上部躯体との接合

- Tec-One P3+ 高耐力壁専用柱脚工法と上部躯体との接合は株式会社タツミの施工指導を受けた専門技術者が実施する。

※1：柱脚工法技術者とは、岡部株式会社または同社が認める者が実施する施工指導を受けた施工技術者のこと。